

第3章 帯広市がめざす教育

1 基本理念

AI[※]をはじめとする急速な技術革新やグローバル化の進展など、社会の変化が加速度を増す中で、人間ならではの感性を働かせて様々な情報や出来事を受け止め、一人ひとりが主体的に判断し、対話や議論を通じて自分の考えを伝えるとともに、相手の考えを理解し、多様な価値観を有する人と協働しながら、よりよい人生や社会を創造する資質・能力を育むことが求められています。

また、我が国は人生100年時代を迎えようとしており、これまでの「教育・仕事・老後」という3つのステージによる単線型の人生から、多様な人生の再設計を可能とするマルチステージの人生を送るようになっていられると言われており、生涯にわたり学びを通じて人や地域とのつながりを深めながら、身に付けた知識や技能を生かして、誰もが活躍できる地域社会の実現が求められています。

帯広市には、北海道の各地で官主導による開発が進む中で、民間人により開拓の鍬が入れられた当時の開拓者の精神が今も受け継がれています。また、豊かな自然やアイヌの文化、開拓の歴史、基幹産業である農業などの地域資源や、生涯学習・文化・スポーツ活動の基盤となる社会教育施設が充実し、多様な体験の機会にも恵まれています。

本市がこれまで進めてきた、ふるさとの自然や歴史、文化などの地域資源を生かしつつ、一人ひとりが主体的に判断し自らの能力を発揮する自立した人づくりや、多様な人々が協働して新たな価値を創造する地域づくりに引き続き取り組む必要があることから、これまでの帯広市教育基本計画の基本理念を継承します。

基本理念

ふるさとの風土に学び

人がきらめき 人がつながる

おびひろの教育

2 基本目標

基本理念の実現を目指し、学びの主体となる「人」の成長過程（ライフステージ）に視点を当て、学校教育と社会教育が相互に関わる青少年期までと、社会教育が中心に関わる成人期以降の2つの期間に区分し、それぞれ基本目標を定めます。

基本目標 1 夢の実現に向けて自立し 互いに支え合う人づくり

社会の変化が激しく先行き不透明な時代において、子どもたちは将来に夢や希望を持ち、その実現に向けてたくましく生きる力を身に付ける必要があります。また、人口減少やグローバル化が進む中、生まれ育った地域を大切にし、多様な考えや文化的背景を持つ人と協働することのできる人材の育成が求められています。

こうしたことから、夢の実現に向けて自立し互いに支え合う人づくりを目指します。

基本目標 2 生涯にわたり学び 活躍できる人づくり

誰もが自らの人生を充実させ、地域社会などで活躍していくためには、社会の変化をチャンスと捉え柔軟に対応しながら、生涯にわたり学びを続けていくことが重要です。また、知識や技能の習得をはじめ、創造力や心身の健康を育む活動などを通じ、人と人とがつながり、支えあい、活気あふれる地域づくりにつなげていくことが求められています。

こうしたことから、生涯にわたり学び活躍できる人づくりを目指します。

3 基本施策

基本目標の達成に向けた取り組みの方向性を示すため、以下の7つの基本施策を定めます。

基本施策1 帯広の明日を拓く力の育成

人口減少や社会の変化が進む中で、持続可能な地域づくりを進めるためには、自分たちが暮らす地域への誇り・愛着を持ち、多様な人々と力を合わせ地域の課題解決に挑む人材を育てる必要があります。

このため、子どもたちの成長段階に応じたふるさとへの理解を深める教育や地域社会の一員としての意識を育む教育を系統的に行うほか、高度情報化やグローバル化など社会の変化に対応した力を育む教育、南商業高等学校における教育などを推進し、十勝・帯広の未来を拓く力を育みます。

基本施策2 変化する社会に挑戦し、たくましく生きる力の育成

AI^{*}の進化による技術革新などにより、将来の予測が困難な時代を生きるためには、単に知識・技能を習得するだけでなく、学んだことをよりよい人生や社会を拓いていくために生かすことができる力を育てる必要があります。

このため、主体的・対話的で深い学び^{*}の実践や多様な考えを持つ人への理解・尊重、健康な体づくりのほか、教員の資質向上などに取り組み、子どもたちが自ら問題を発見し解決する力や、多様な人と協働し新しい価値を創造する力を育みます。

基本施策3 地域とともに育む教育の推進

子どもたちが、変化の激しい社会を生きていくために必要な資質・能力を培っていくためには、学校と家庭や地域が目指す子ども像を共有し、現実の社会との関わりの中で、子どもたち一人ひとりの豊かな学びを実現していく必要があります。

このため、コミュニティ・スクール^{*}や小中一貫教育^{*}などに取り組み、学校・家庭・地域の連携や学校間の連携・協働を促進することにより、地域社会全体で子どもたちを育む教育を進めます。

基本施策4 安全・安心な教育環境の整備

経済的な理由や心身の状況に関わらず、誰もが等しく自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育機会の提供がますます重要となってきています。また、授業などにおいて日常的にICT^{*}を活用できる環境の整備や学校施設の老朽化への対応が求められています。

このため、経済的困難を抱える家庭への支援や一人ひとりの困り感に応じた教育環境の整備、安全かつ適切な機能を備えた学校施設の整備などにより、子どもたちが安心して充実した教育を受けられる環境づくりを進めます。

基本施策5 自ら学びともに支える生涯学習の推進

人生 100 年時代においては、複数の仕事を持つことや働きながらボランティア活動をするなど、誰もが生涯にわたって自らの生き方を自由に設計し、学んだことを生かして社会で活躍していくことが重要となります。

このため、市民が生涯にわたり自らの可能性を広げ、ともに学びあいながら、学習の成果を自己の成長やよりよい地域づくりに生かすことができる生涯学習を推進します。

基本施策6 人が輝く文化芸術活動の推進

文化芸術活動は、創造性や感性を育み、人々に精神的な豊かさや感動を与えるものであり、市民が生涯にわたって他者とのつながりを持ちながら、心豊かな生活を実現するためにますます重要になっています。

このため、多様な主体がそれぞれ持てるものを生かし連携する、市民主体の文化芸術活動を進め、自己表現を通じた生きがいづくりや、人々の交流を創出しながら、人づくりや郷土に対する愛着と誇りの醸成につなげます。

基本施策7 笑顔をつなげるスポーツ活動の推進

青少年の体力の向上や他者を尊重する心の育成に加え、超長寿社会において、誰もが生涯にわたり健康を維持しながら、いきいきと活躍し交流する、活力ある地域社会を実現するため、スポーツの果たす役割がますます重要になっています。

このため、誰もが主体的に関わるスポーツ活動を促進し、スポーツが持つ多面的な力を幅広く発揮させていくことにより、躍動する豊かなまちづくりを進めます。

※ AI P5 を参照。

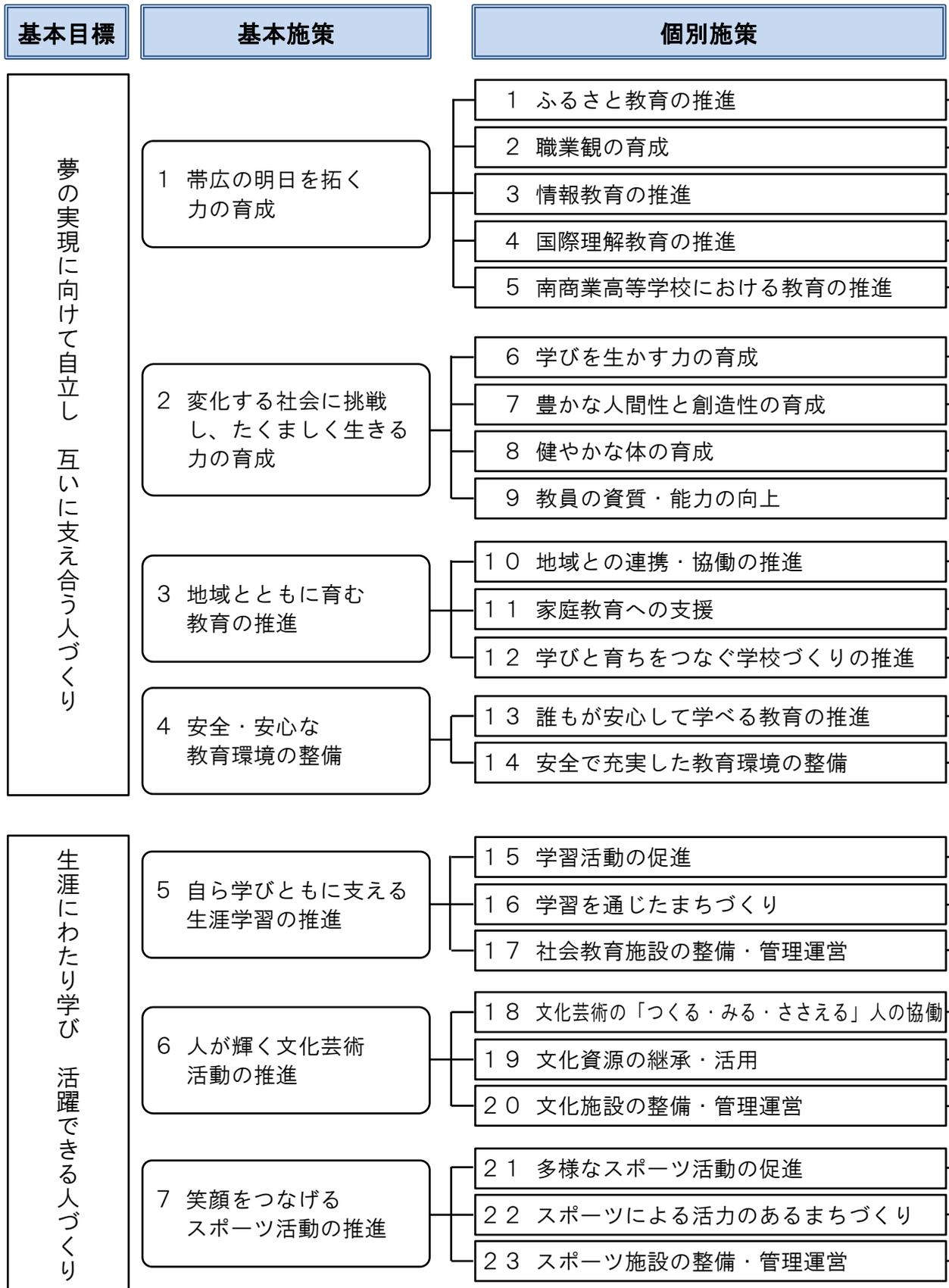
※ **主体的・対話的で深い学び** 児童生徒が各教科の特質に応じた見方や考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習。

※ **コミュニティ・スクール** 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、保護者や地域住民等により構成される学校運営協議会を設置し、学校運営の基本方針を承認するほか、教育活動について意見を述べることができる仕組みを持つ学校のこと。

※ **小中一貫教育** 小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な指導を目指す教育。

※ ICT P5 を参照。

4 施策体系



めざす姿

子どもたちが地域に誇りと愛着を持ち、社会の一員として地域活動に積極的に参加しています。

子どもたちが様々な職業に興味を持ち、働くことの大切さや地域産業への理解を深めています。

子どもたちがインターネットに関する基本的なルールを理解し、情報通信機器を正しく活用しています。

子どもたちが世界の多様な文化に関心を持ち、外国の人と交流しようとする姿勢を身に付けています。

生徒たちが専門的な知識・技術を身に付け、地域で活躍する人材が育っています。

子どもたちが意欲的に学び、課題の解決に粘り強く取り組んでいます。

子どもたちが互いの価値観を尊重し、多様な人と協力し取り組んでいます。

子どもたちが運動に親しみ、心身ともに健康的な生活を送っています。

教員が子どもたちと向き合い、子どもたちの力を引き出す指導が行われています。

地域の人たちが子どもたちの教育に積極的にに関わり、健やかな成長を支えています。

各家庭において、子どもたちが規則正しい生活習慣や社会的なマナーを身に付ける教育が行われています。

学校間の連携により、子どもの個性を理解し尊重した指導が継続的に行われています。

障害の有無や家庭の経済状況等に関わらず、誰もが安心して学んでいます。

安全で機能的な学校施設の整備など、良好な教育環境のもとで、子どもたちが充実した学校生活を送っています。

誰もが生涯にわたり、目的やライフステージに応じた学びを続けています。

学習を通じて身に付けた知識や経験をまちづくりなどに生かしています。

社会教育施設が積極的に活用され、多様な学習活動が行われています。

文化芸術活動を通じて、心の豊かさや生きがい、人とのつながりが生まれています。

歴史、伝統、文化への理解を通じて、ふるさとへの誇りと愛着を持っています。

市民が文化施設に魅力を感じ、積極的に活用しています。

誰もが、「する・みる・ささえる」など多様な形で、スポーツに親しんでいます。

誰もが生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツで集い、まちの賑わいづくりにつながっています。

スポーツ大会の開催をはじめ健康増進や仲間づくりなど、多くの方がスポーツ施設を活用しています。